

担当：阿部小涼（あべこずず）
法文研究棟 331 室
課題提出：kosuzu@eve.u-ryukyu.ac.jp

お知らせ

▼合意してないプロジェクト meets Dr. Cornel West

とき：5 月 11 日（日）18:00pm OPEN
ところ：G-shelter（330 沿い中部商業交差点近くのバイク屋地下、ほか亭のとなり）
スペシャルゲスト：カクマクシャカ（ミニライブアリ）
学生さん：500 円（ドリンク別）/職持ち人：500 円以上/心温まるフードの持ち込み歓迎！

▼第 2 回うないフォーラム 2008

県民の水がめ「やんばるの森」で何が…？北部訓練場と「枯葉剤」、ヘリパッド建設
講師 伊波義安さん
日時 5 月 23 日（金）午後 6：30- 場所 なは女性センター学習室（那覇市新都心銘苅庁舎内）
参加費 300 円 主催 うないネットワークなは（098-885-5856）

■5 月 2 日のリアクションペーパー課題（Still, you have a chance!）

(3)「書を捨てよ街へ出よう」メーデー観察実習

-5 月 9 日深夜 24：00 までにメール添付：宛先☞ kosuzu@eve.u-ryukyu.ac.jp

■メーデーcatch up

5 月 3 日「自由と生存のメーデー」関連

<http://tv.g8medianetwork.org/?q=node/107>
<http://tv.g8medianetwork.org/?q=node/116>

5 月 1 日福岡「5 月病祭り：危うい鼓動」関連
fuf blog フリーターユニオン福岡

<http://fnfukuoka.jugem.jp/>
「フリーターのデモ阻止 福岡市天神警官 50 人ともみ合い」『西日本新聞』
08 年 5 月 2 日（右画像も）。

<http://www.nishinippon.co.jp/nnp/item/19950?c=210>



<コモンズ>

(4) ストリートを取り戻せ！From ACT UP

■ACT UP!: AIDS Coalition to Unleash Power（権力解放を目指すエイズ連合）

■AIDS at 25 - 1989 ACT-UP SF March - GLBT Historical Society

<http://jp.youtube.com/watch?v=H3zefhq9QI4>

-参考：GLBT Historical Society

<http://www.glbthistory.org/>

■ACT UP Protest in Times Square

<http://jp.youtube.com/watch?v=59aAlbw18gA>

-参考：北丸雄二「虹色のタイムズスクエア」隔数日刊-Daily Bullshit Blog
http://www.kitamaruyuji.com/dailybullshit/2007/03/post_210.html

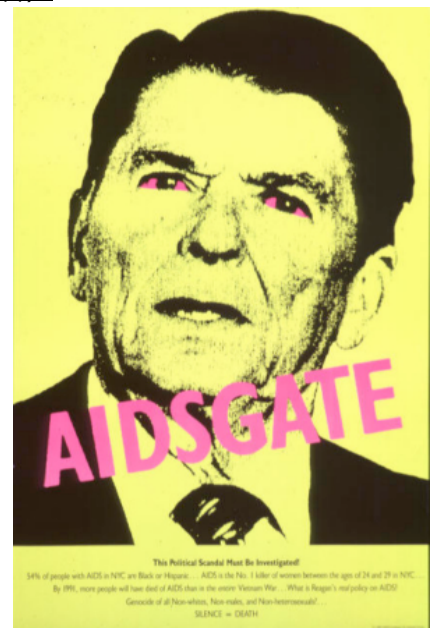
Don't Ask Don't Tell Policy 下の Pace 将軍による不適當発言に対するデモ

▼ACT UP (AIDS Coalition to Unleash Power)

1987 年、ニューヨークで結成された、エイズ危機に対する組織。1987 年 3 月、ニューヨークのレズビアン&ゲイ・コミュニティ・サービス・センターで、劇作家のラリー・クレイマーが呼びかけ、1987 年 3 月 24 日、ウォール・ストリートで最初のデモ。非暴力直接行動を行い、不服従のため 17 人が逮捕。

-Silence=Death（沈黙=死）

「エイズゲイト：政治スキャンダルを捜査せよ！NYC で AIDS と共に生きる人の 54%が黒人とヒスパニック系の人々である。AIDS は、ニューヨークの 24 歳から 29 歳までの女性の最大の死因である。1991 年までに AIDS によって死亡する人の数は、ベトナム戦争の犠牲者よりも多くなる。レーガンの AIDS 政策の本当の狙いは何なのか？非白人、非男性、非異性愛者に対するジェノサイドか？沈黙=死である。」（右画像に添えられた文章）<http://www.actupny.org/reports/reagan.html>



▼転機としてのストーンウォール反乱

グリニッジ・ヴィレッジのゲイバー「ストーンウォール・イン」という名前を一度も聞いたことがなくても日本人なら当然です。日本のマスメディアは90年代に入るまでここで起きた同性愛者たちの“蜂起”をただの1行も報道していません。アメリカのメディアですら、たとえばタイム誌がそれに関して恐る恐る触れたのは事件後4カ月も経ってからでした。[中略] 69年6月28日土曜の未明にストーンウォールでいったい何が起きたのか・・・伏線としては前日にゲイたちのアイドルであり、ゲイのファンたちをととても大切にしていた女優ジュディ・ガーランドが死んだことが挙げられます。その夜はこの偉大なアイコンを偲んで数多くのゲイたちがヴィレッジに集まっていた。そんな大切なとむらいの通夜にNY市警がゲイバー摘発にやってきたのです。

当時のゲイバーでは酒の販売が禁止されていました。それを黙認して警官たちは賄賂を受け取り、定期的に形だけのがサ入れをやっていました。この夜も簡単なはずでした。なにせ相手はヤワなおカマたちなのですから。

例によって店の従業員と女装の売春夫たちが手錠をはめられ逮捕車両に押し込まれました。バカにされののしられ警棒で小突かれながら「なんなのよ！」とだれかが警官に文句を言います。「こんな夜くらい静かに酒を飲ませてよ」と。「ファゴットが一丁前の口を利くな」と警官が言います。「なにがジュディ・ガーランドだ」と別の警官が笑います。

だれかの心でなにかが切れます。それはそうでしょう。愛する者が死んだその夜に、最もまじめでひたむきな状態の人間の心が足蹴にされているのです。野次馬だった遠巻きの多くのゲイたちの中に、警官隊に向けて小銭を投げつける者が出てきます。小銭は小石になります。次にはビール瓶になり路端のゴミ箱になります。逆上する警官隊に対抗して「ゴー、ガールズ！」と号令が上がります。すると女装のゲイたちやレズビアン¹の勇者たちがいっせいに警官隊に歯向かいはじめたのです。道路のアスファルトが剥がされ、駐車メーターのネギ坊主も引き抜かれ投げつけられ、「反乱」はやがて数千人を巻き込んだ大暴動になりました。なにも失うものがないなにもかをも奪われていた者たちが、その夜初めて奪われたくないものに気づいて拳を握り立ち上がったのです。

暴動は、昼間はバー側が夕酒を振る舞う酒宴となり（酒を売るのは違法でしたから）、夜には警官隊との衝突を繰り返して3日3晩続きました。これがその後「ストーンウォールの反乱」と呼ばれるものでした。

これがどのくらいゲイの人権運動に影響があったかといえば、ストーンウォール以前にはゲイの人権デモはせいぜい50人も集まればよかったのに、それが翌年のストーンウォール記念デモでは3千人のゲイがクリストファー・ストリートを練り歩いた、と言えましょう。ゲイ団体も事件前は全米でわずか50ほどしかなかったのが1年半で200団体にも増えました。73年末までには、大学や教会や市単位などでその数、全米で合計1100団体以上にも膨れ上がったのです。¹

▼メディアの使用

- 平和的な不服従の行為であると同時に逮捕されるようなリスクを冒す=メディアの関心をひくため。
- その際に参照されたのは、ベトナム反戦運動や公民権運動のメディアに対するアプローチ。

▼DIVA TV (ACT UP のアフィニティ・グループのひとつ)

- インディー系メディア。プレス・パスを着用し、ビデオカメラを持ち、ACT UP の活動を記録すると同時に、警察による暴力的な弾圧を記録し、証拠を残し、抑圧を阻止するという役割も担う。

▼グローバルな関心

- ACT UP が問題にしたのは、WTO を通じてアメリカ政府が進めている製薬会社の国際的な特許保護であった。WTO は1994年にアメリカ主導の下にTRIPs (Trade-related Aspects of Intellectual Property Rights 貿易関連知的財産権)を定め特許など知的財産権のグローバル化を図った。このTRIPsがAIDS治療薬に適用されることで、膨大な対価を払えない途上国の人々が使用する可能性が途絶、壊滅的ダメージを与える。さらに、自国で安価なAIDS治療薬の開発生産を試みる途上国に対して経済制裁を武器に圧力をかけた。
- 1996年頃から、ACT UP による反グローバリズム運動への関心高まる。
- ラルフ・ネーダー「技術に関する消費者プロジェクト」と接点を持つ。
- 1999年、アフリカに対する製薬会社の政策に深く関与していた大統領候補アル・ゴアに対して、対抗キャンペーンを展開。→メディアの反応を得て、クリントン政権の方針を引き出す一定の成果

▼ゲイとレズビアンの権利獲得運動と保守化

- 保守的なゲイ・アクティビズムと、クィア・アクティビズムの間の軋轢と緊張
- 社会的な認知の獲得と反比例するラディカリズム
- 1998年「セックスパニック!」、道徳主義と消費主義の蔓延を象徴するディズニーストアに向かってデモ行進。

■RTS: Reclaim the Street (路上を取り戻せ)

通りが広告文化の商品と化したとき、ストリート・カルチャーのすべてが包囲されたことは、私たちの年代の皮肉のひとつである。ニューヨーク、バンクーバー、ロンドンなどあらゆる都市で、落書きアート、ポスター、物乞い、歩道アート、車の窓拭きの子供たち、歩道のガーデニング、食べ物売りへの警察の取締が強化され、急速にすべての都市生活の営みが「犯罪」とされるようになった。

ストリート・カルチャーの商品化と、文化の犯罪としての取締の間の緊張は、イギリスではとくに劇的だった。90年代初めから半ばにかけて、広告業界がレイヴ・シーンの音楽やイメージに飛びつき、車、飛行機会社、ソフトドリンク、新聞社の広告に使い始めたが、1994年、イギリスでは刑事裁判法が改正され、レイヴは違法となった。同法により、野外で音楽をかけると機材を押収され、公的な場所でのレイヴは厳しく取り締まられるようになった。

¹北丸雄二「三島由紀夫のストーンウォール」『OCS ニュース』、北丸雄二のNew York Journal Blog 再掲載 [http://www.kitamaryuji.com/stillwannasay/2006/12/post_9.html]、2008年5月8日取得。

この法律と闘うため、クラブに集う連中が、警察権力に同様に危機感を感じたより政治的なサブカルチャーと協力関係を結んだ。立ち退きに直面した不法占拠者たち、放浪のライフスタイルが取り締まられることになった、いわゆるニューエイジのトラベラーたち、ブルドーザーの通り道に小屋を建てたり、トン鳴るを掘ったりしてイギリスの森林破壊と闘っていた急進派の「エコ戦士」たちである。

これらカウンター・カルチャーの共通テーマとは、植民地化されない空間への権利、家、木々、集会、ダンスだった。DJ、反企業活動家、政治的またはニューエイジのアーティスト、急進派のエコロジストが合流してきたのが、パリの1968年（5月革命）以来の、もっとも活気にあふれ、急速な盛り上がりを見せる政治運動、「Reclaim the Streets（通りを取り戻せ）」である。²

▼M11 道路拡張反対運動

-1991年結成。サイクリング・ゾーンの整備、モーターショーへの抗議など

-1993年、M11 高速道路建設のため、クレアモント通りを中心とした350世帯の取り壊しとロンドンに残された森が破壊されるという建設計画に対する30年来の反対運動にもかかわらず着工、直接行動の開始。取り壊し予定の家屋と道路の封鎖、占拠。レイヴ・パーティとアート・パフォーマンスを繰り広げた。

▼1995年、ロンドン、カムデン・ハイストリート

-1995年5月、マーケット客でにぎわうロンドンのカムデン・ハイストリートで、2台の車が衝突し、事故車のドライバーが口論を始め、交通渋滞を引き起こす。買い物客のなかから、突然集合した数名が、車に上り、横断幕を掲げる。

「ストリートを取り戻せ。都市を解放せよ。自動車を撲滅せよ。」（右画像）

-同年7月、イスリントンのアッパー・ストリート瀬挙。渋滞する4車線道路の真ん中に突如7メートルの足場が現れ、一人が宙づりになり、3000人が周囲を取り囲んでストリートパーティ開始。

-世界中の都市に波及。

-自発的な組織、インターネットを用いた情報交換。

-DiY (Do it Yourself)文化との合流。商業化された既存の娯楽産業に異存せずに関わり、自分自身で自立的に創り出すスタイル。自分たちでコンサートを組織し、ジン（ミニコミ誌）やラジオ局をつくり、楽しむ文化実践。



▼1996年、M41 建設反対

■Reclaim The Streets, London, 1996, M41

<http://jp.youtube.com/watch?v=OUHY7KwL61o&feature=related>

1996年には高速道路M41を一万人もの人々が占拠する。その頃には、RTSの拡大は警察にとっても脅威となり、監視と弾圧は一層厳しくなっていた。M41占拠の時には、地下鉄シェパーズ・ブッシュ駅が集合場所として指定されただけで、実際どのように行動するのか多くの参加者にはあえて知らされなかった。事前に情報をキャッチした警察が、警戒態勢をひいていたからである。それに対してRTSは都市部の道路だけを警戒していた警察の裏をかき、警備がなされていなかった高速道路へよじ登り、高速道路をロックアウトしたのだった。その後はいつものストリート・パーティである。ダンスが続けられる一方で、あるグループは舗装された道路を掘り起こし、環境回復を訴えて木を植え始める。パーティは丸一日続き、掘り返された道路の修復のために高速道路は約一週間通行止めとなった。[中略] M41ストリート・パーティの後、RTSのオフィスは警察の徹底的な取り調べを受ける。コンピュータは没収され、高速道路破壊容疑で多くの参加者が逮捕される。しかし、このことはRTSの運動の挫折を意味するものではなかった。地下鉄のストライキに対する支援の手法に関心を示したリバプールの元港湾労働者たちがRTSに連絡を取ってきた。リバプールでは500人ももの港湾労働者が不当に解雇され仕事を失った。かれらはRTSの直接行動の方法とそのアピール力に関心を示したのである。

これはそれまであまり関係のなかった、そしてしばしば対立さえしていた環境運動家、アナキスト達が労働運動と結びつく最初の機会となる。その年10月、数百人の港湾労働者とその家族、DiY活動家、環境活動家、労働組合運動家などがリバプール港を三日間、占拠、封鎖し、ストリート・パーティとカーニバルを繰り広げた。警察の弾圧はこれまでになく大きなものだったが、環境運動と労働運動が結びついたという意味では歴史的なできごとだといえる。環境運動をあらわす緑に、労働運動をあらわす赤、そしてアナキズムをあらわす黒の稲妻が描かれたRTSの旗が最初に登場するのも、このリバプール港の占拠からである。³

☞参考映画：『ピケをこえなかった男たち：リバプール港湾労働者の闘い』（ケン・ローチ監督/英/1997）

■Reclaim the Streets, Trafalgar Square, 1997

<http://jp.youtube.com/watch?v=yqAJKHqDPuo&feature=related>

■Reclaim the Streets, M41, London, June 1997

<http://jp.youtube.com/watch?v=Th3QaDAQHrM&feature=user>

²ナオミ・クライン著、松島聖子訳『ブランドなんかいらない：搾取で巨大化する大企業の非情』はまの出版2001年 pp.291-92。

³毛利嘉孝『文化=政治』月曜社2003年 p.103-04。

■クリティカル・マス

<http://critical-mass.info/>

▼1992年、サンフランシスコで始まった自転車デモ。

- 自転車愛好家が同じ場所・同じ時間に偶然に大集合する。
- 限界値を超える大量の(critical mass)自転車によって、交通が遮断され、自動車が道路に入れなくなることを狙う。
- CMの始め方「許可を取るな」

When local police learn of your ride, they may insist that you get a permit, perhaps a parade permit. Don't do it. The point of Critical Mass is that biking is a right, not a privilege.⁴

-1997年7月サンフランシスコ・ライド、7000人の参加者、250人の逮捕者、世界中で報道され、認知を得る。

-さまざまなイシューで集合する。自動車撲滅運動から2004年共和党大会に対抗するためのBike National Convention /Bike Bloc (右画像)、政治問題、環境問題、RTS、etc…



■カーニヴァル、音の力、占拠するスタイル

▼オルタナティブな公共圏

「公共圏」=近代民主主義を発展させる不可欠な空間

→ユルゲン・ハーバーマス (1961) 『公共性の構造転換：市民社会の一カテゴリーの考察』

「オルタナティブな公共圏」

→ポール・ギルロイ 『ユニオンジャックに黒がない』

啓蒙主義時代のカフェやサロン、近代のメディアなどの「公共圏」は、ハーバーマスが主張するほど自由で平等ではなく、始まりからすでに西洋ブルジョア階級の男性の空間であった。これに対してサウンドシステムのあるクラブ、レストラン、レコードショップ、カーニバルは、制度的な人種差別や教育機会の欠落のためにドロップアウトした若者が集まる場所、反社会的場所としての公共圏を形成した。

▼ノッティンガムヒル・カーニバルの分析

当初の英国流のカーニバルがトリニダードのカーニバルになり、さらにジャマイカ系の若者が入ってくるに連れて、英国の外に起源を持ちつつも英国の生活に根ざした二重のアイデンティティをたたみ込んだ英国の黒人の集合的なアイデンティティが形成された。移民第一世代においては、こうしたコミュニティはジャマイカやトリニダード、ハイチなど出身地ごとに分かれており、しばしば対立関係にあったのだが、その移民としての英国の経験、失業ややむことのない人種差別、教育における阻害など、がスティールドラムやレゲエ、ダブなどの音楽体験を通じて共有されていったのである。⁵

▼TAZ (Temporally Autonomous Zone) 一時的自律空間

→ハキム・ベイ 『T・A・Z：一時的自律ゾーン』

権力から解放された自由空間だが、固定化されたり永続化すると権力に取り込まれてしまう。常に一時的でほかの場所に移動する。権力の側かれあは捉えることも記述することもできない

■次回は5月16日(5) <コモンズ>アヴァン・ガーデニングとバス乗客ユニオンなどを採り上げる予定。

[<コモンズ>たとえばこんな参考文献]

ナオミ・クライン 『ブランドなんかいらない』

高祖岩三郎 『ニューヨーク烈伝：闘う世界民衆の都市空間』 青土社 2006年。

DeMusik Inter.編 『音の力：<ストリート>占拠編』 インパクト出版会 2005年。

ハキム・ベイ著、箕輪裕訳 『T・A・Z：一時的自律ゾーン』 インパクト出版界 1997年。

毛利嘉孝 『文化=政治』 月曜社 2003年。

Paul Gilroy *There Ain't No Black in the Union Jack: The Cultural Politics of Race and Nation* (Univ. of Chicago Press, 1991).

Benjamin Shepard and Ronald Hyduk eds., *From ACT UP to the WTO: Urban Protest and Community Building in the Era of Globalization* (Verso, 2002).

⁴ “How to start a Critical Mass Ride,” *Critical-Mass.info* [<http://critical-mass.info/howto/index.html>]

⁵ 毛利 『文化=政治』 p.43.